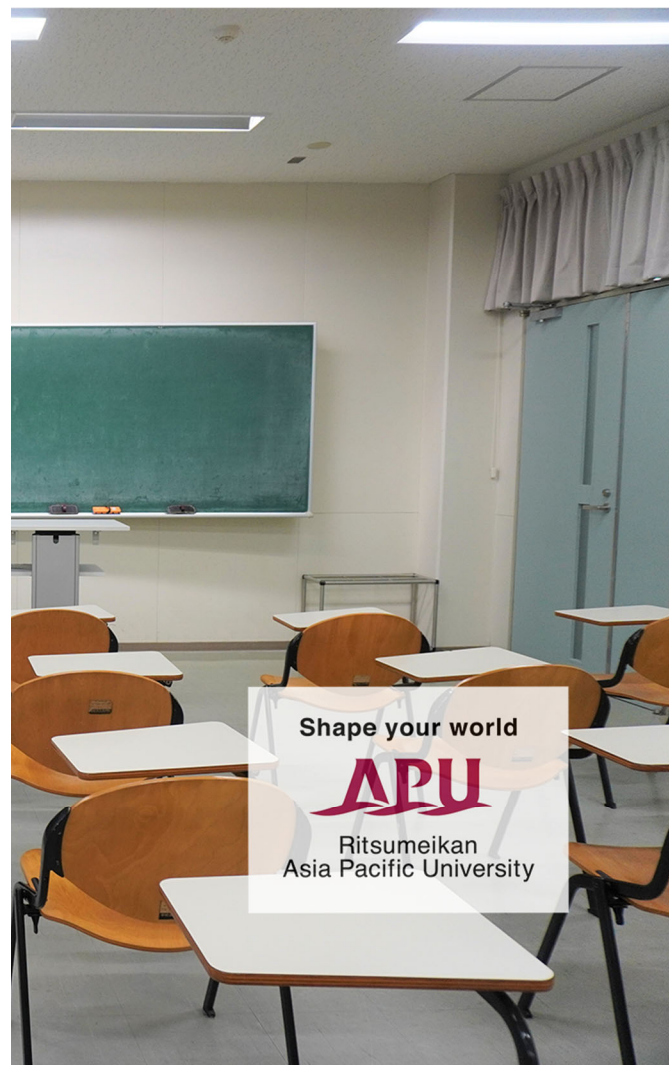


立命館アジア太平洋大学 入学時アンケート 基礎集計報告書 2023 年度



2024 年 6 月

立命館アジア太平洋大学
作成者: 学長室 IR チーム

目次

調査の概要	3
調査の目的	3
調査の対象	3
調査の方法	3
調査の期間	3
主な調査項目	3
回収の状況	3
回答者の属性	4
入学までの行動	5
APU を知ったきっかけ	5
入学の決め手	6
第一志望状況	8
海外渡航歴	8
学習習慣と読書習慣	10
現在について	12
期待要素	12
身についているコンピテンシーについて	13
在学中から卒業後について	14
留学希望状況	14
学修分野希望状況	15
進学希望状況	15
進路希望状況(場所)	16
おわりに	17
データの提供について	17

調査の概要

調査の目的

APU に入学した学生を対象に、以下 3 点を目的にアンケート調査を毎年実施している。

- ・APU に入学する前の行動および入学の動機、期待など新入学生の実態を把握し入試戦略に繋げる。
- ・入学時点における在学中から卒業後のプランについて聞き取り、適切な学生への支援に繋げる。
- ・SGU の成果指標として掲げている項目(海外と渡航歴、自国籍以外の友人関係など)の測定を行う。

また、2022 年度入学者からは APU Rubric に基づき、入学時点でのコンピテンシーに対する自己認識を聞き取り、学生の成長実感の可視化に繋げることも目的としている。

調査の対象

2023 年度に入学した学部新入生 1568 人

調査の方法

インターネットによるオンライン調査(記名)

新入生オリエンテーション期間中にアンケートに関する説明を行い、回答を促した。

調査の期間

4 月入学(4 月 1 日～5 月中旬)

9 月入学(9 月中旬～10 月末)

主な調査項目

- ① 志望理由
- ② 進学先決定時期
- ③ 進路を選択する際に必要とした情報と情報収集手段
- ④ 志望校決定に最も影響を与えた人物について。またその人物の詳細について
- ⑤ APU への進学を決定した際の周囲の反応や相談者について
- ⑥ 入学前に不安に感じた要素について
- ⑦ 入学前の来学経験について
- ⑧ APU への愛着度(帰属意識)
- ⑨ 入学の決め手について
- ⑩ 併願校と第一志望率
- ⑪ 入学前の学習時間と読書時間について
- ⑫ 入学前の多国籍の友人関係について
- ⑬ 入学前の海外渡航経験について
- ⑭ 入学時点での APU Rubric のコンピテンシーに対する自己認識(2022 年度から)
- ⑮ 新入生の卒業後の進路希望
- ⑯ First Generation であるか(2022 年度から)

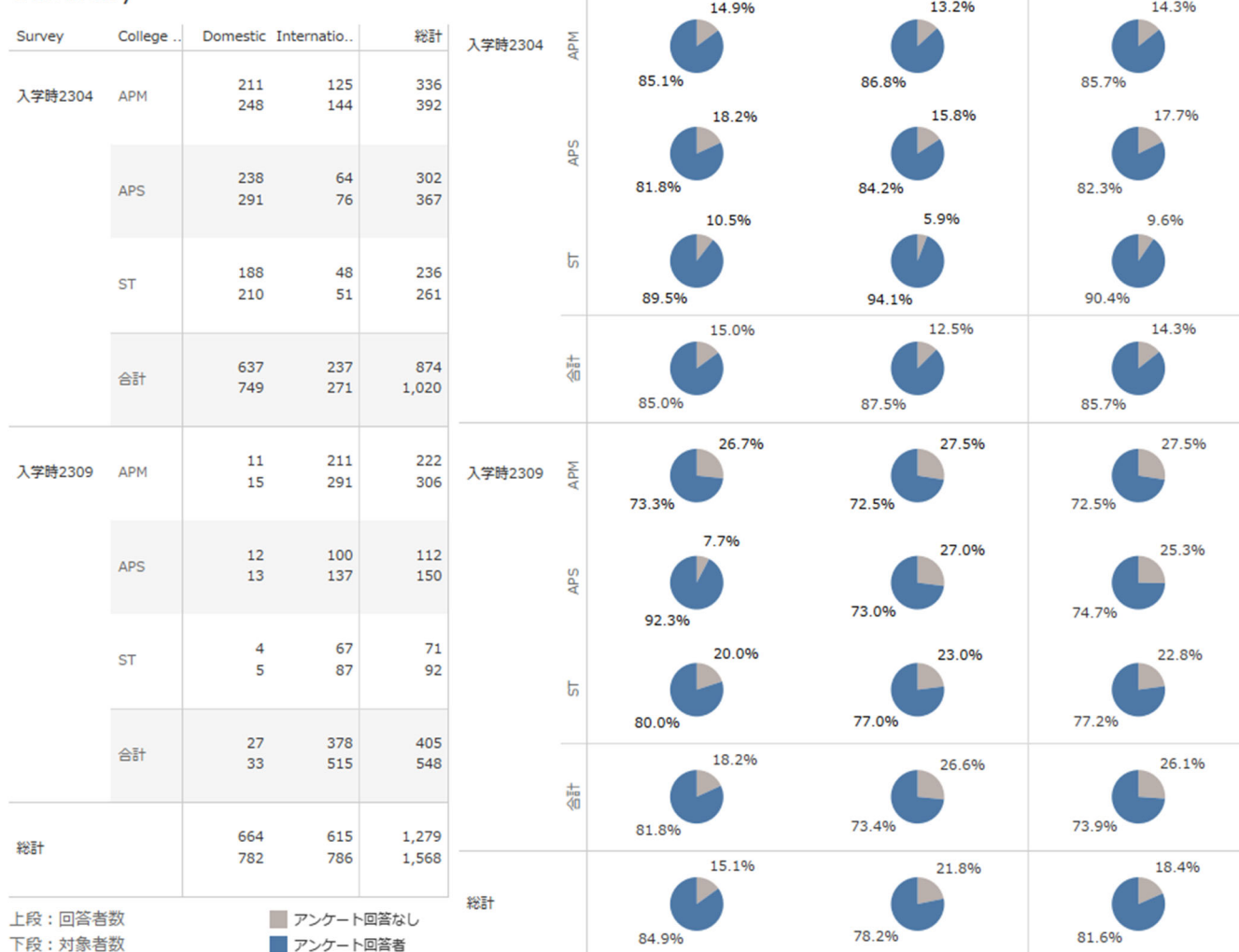
回収の状況

対象者 1568 人に対し調査を実施し、1279 人から回答を得た(回答率 81.6%)

回答者の属性

学部別の内訳と国内学生、国際学生の内訳を示す。

Summary



2019 年度までは新入生オリエンテーション時に対面による説明を行いコンピュータールームにて一斉に回答を行っていたため、回答率は 9 割を超えていた。しかし、コロナウィルス流行によるオンライン化およびその後のオリエンテーションプログラム増により、十分な時間をとって対面集合で回答を行うことが困難となって以降、回答率は約 75%に減少している。

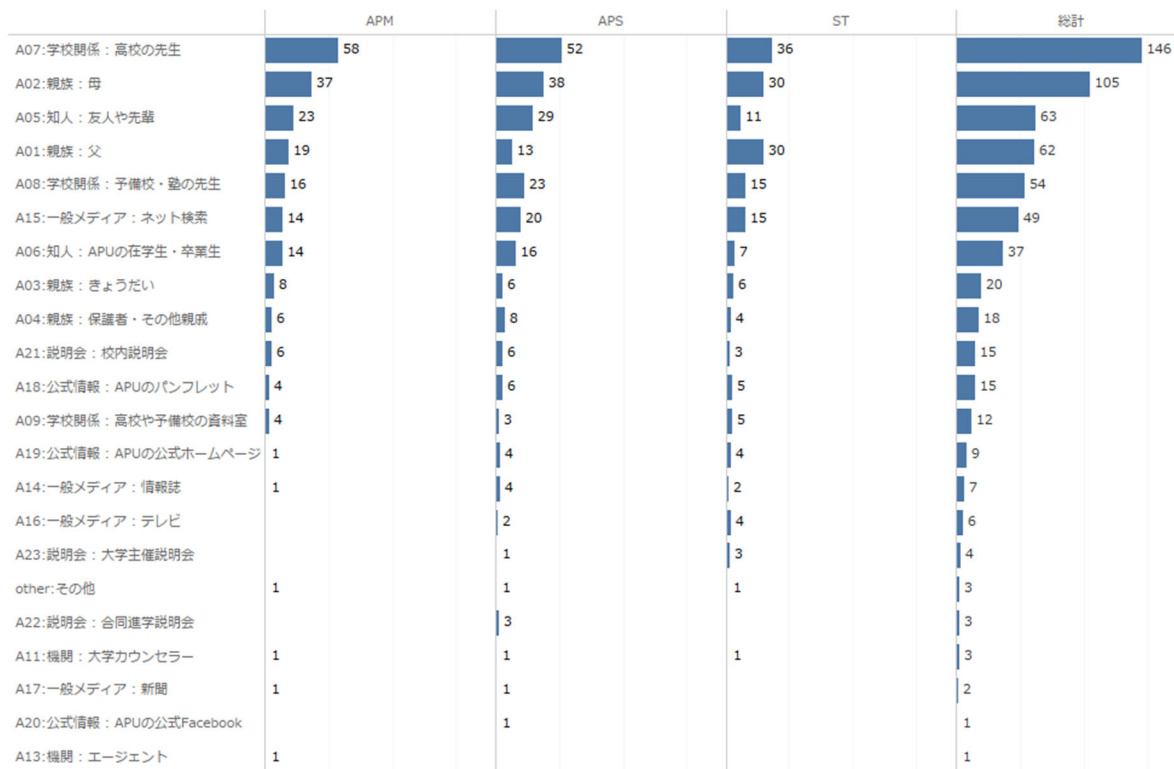
今後も回答率の上げ止まりが見られない場合は、オリエンテーション内で対面参加必須の説明会を行い、説明会内での回答を再開させることを検討する。

入学までの行動

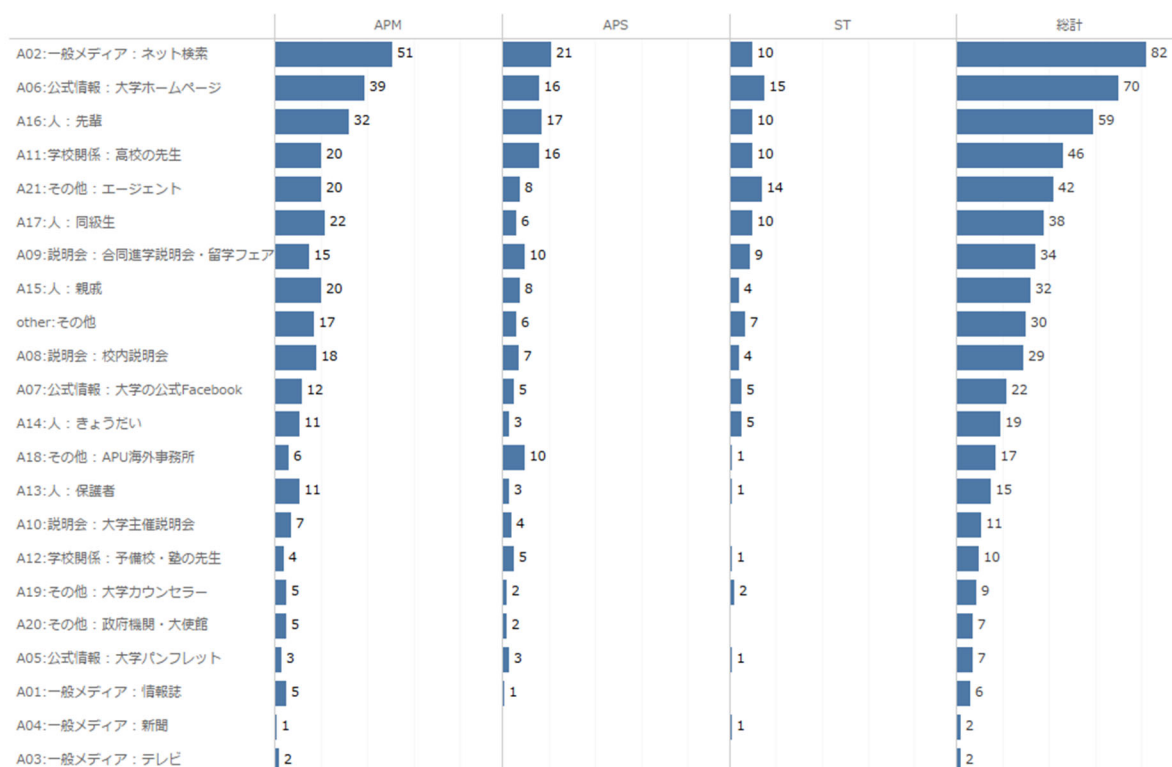
<APU を知ったきっかけ>

APU を知った最初のきっかけについて質問した結果を示す。国内学生は「高校の先生」からが最も多く、次いで個人からの紹介(特に父母)次いで知人友人と学校関係、予備校塾と続く。一方、国際学生は「一般メディア・ネット検索」が最も多く、次いで「公式情報:大学ホームページ」だった(なお昨年度は「高校の先生」が次点)。

APUを知った最初のきっかけは何ですか？（国内）



APUを知った最初のきっかけは何ですか？（国際）



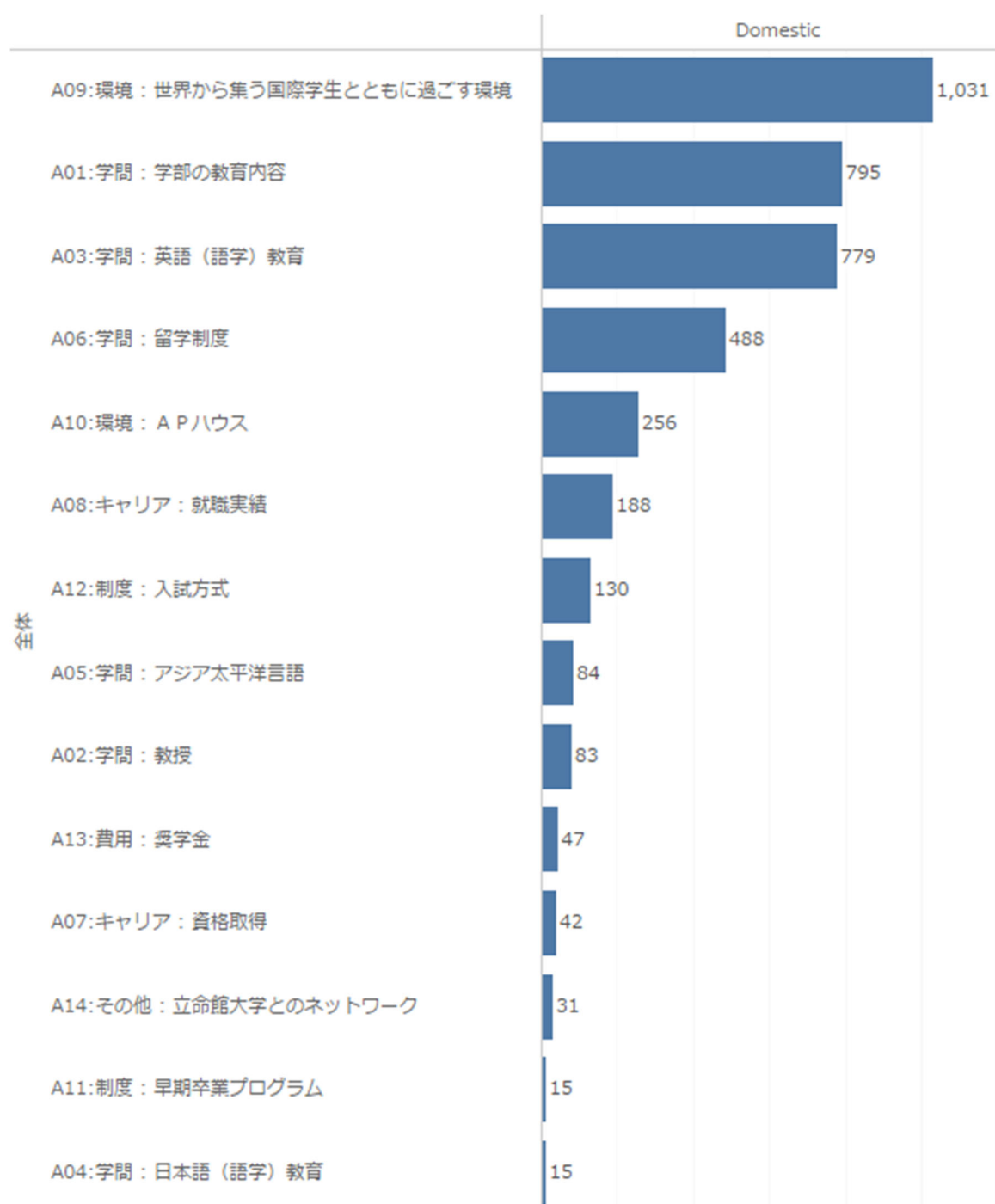
<入学の決め手>

「APU 入学の決め手となったこと」を優先順位 3 位まで選択させ、1 位:3pt. 2 位:2pt. 3 位:1pt.として算出した合計点の高い順番に並べたものを以下に示す。

国内学生は第 1 位が「世界から集う国際学生とともに過ごす環境」、第 2 位「学部の教育内容」、第 3 位「英語（語学）教育」だった。学部別で見ても、2 位と 3 位が前後することはあったが要素は同じ 3 つであった。

APU入学の決め手となったことは何ですか？以下から優先順位3位までを教えてください。

※1位:3pt. 2位:2pt. 3位:1pt.とし、合計点で算出。

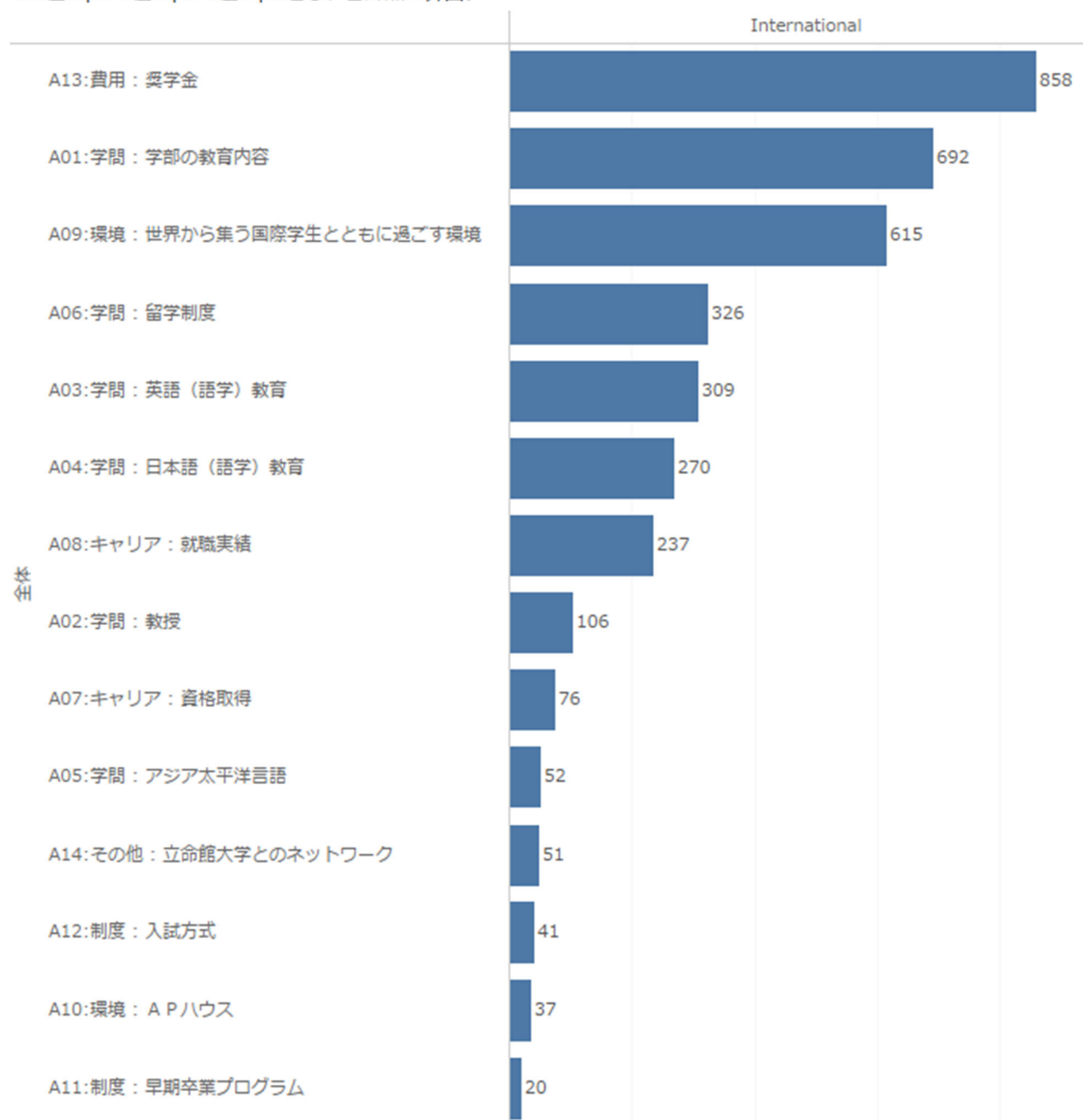


国際学生は第1位「奨学金」で、第2位「学部の教育内容」、第3位「世界から集う国際学生とともに過ごす環境」だった。こちらも国内学生と同様に、学部別で見ても順位の違いはあれど要素は同じ3つであった。

また、決め手となった3要素は国内・国際学生とも昨年度も同様であった。

APU入学の決め手となったことは何ですか？以下から優先順位3位までを教えてください。

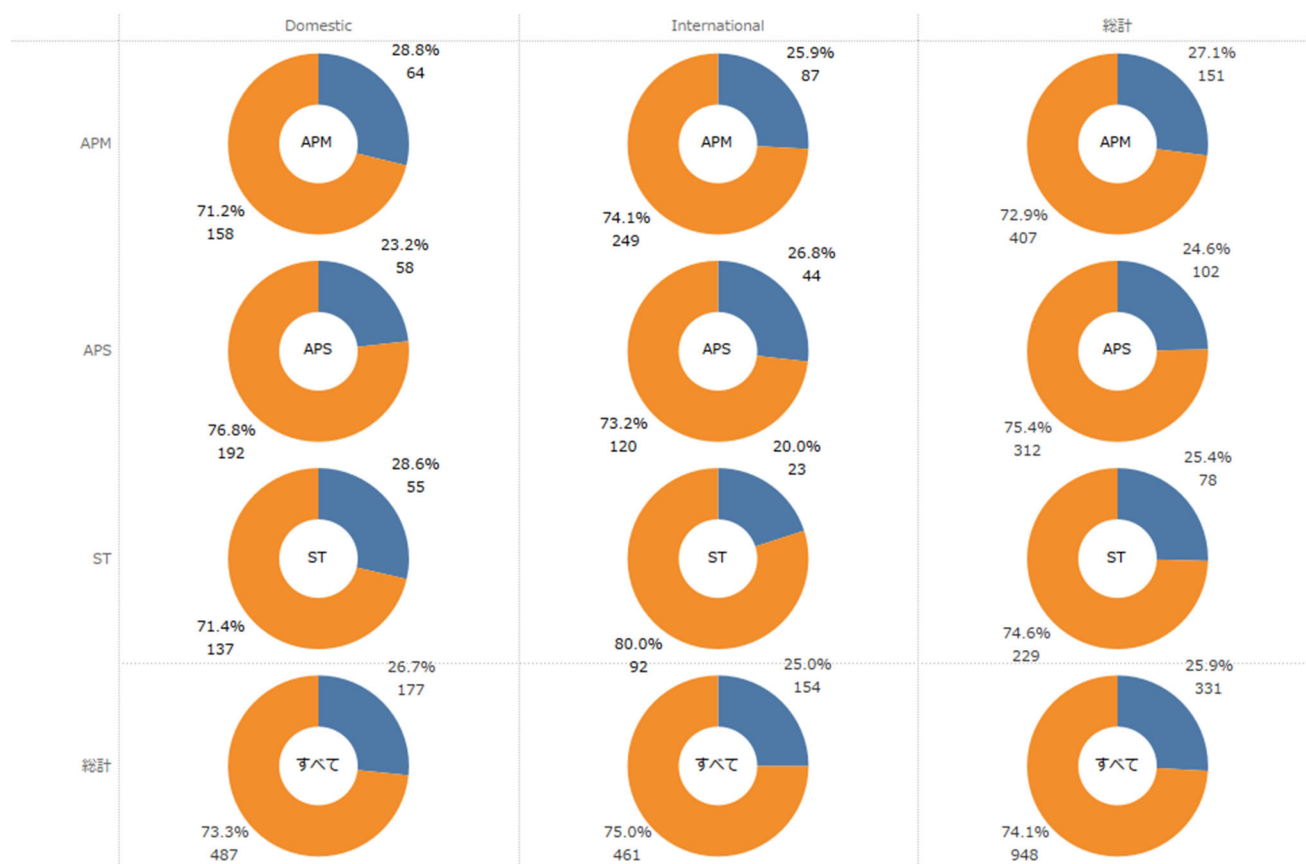
※1位:3pt. 2位:2pt. 3位:1pt.とし、合計点で算出。



<第一志望状況>

APU が第一志望であったかを質問した結果を学部別、国際学生、国内学生別に以下に示す。
 全体では 72.9%が第一志望であったと回答している。昨年度は 73.9%で概ね昨年と同様の第一志望割合。
 学部別で見ても、昨年度と同程度の第一志望割合(ST は今年度開設のため比較は APM と APS のみ)。
 国際学生・国内学生別にみても同様の結果であった。

APUは第一志望でしたか？



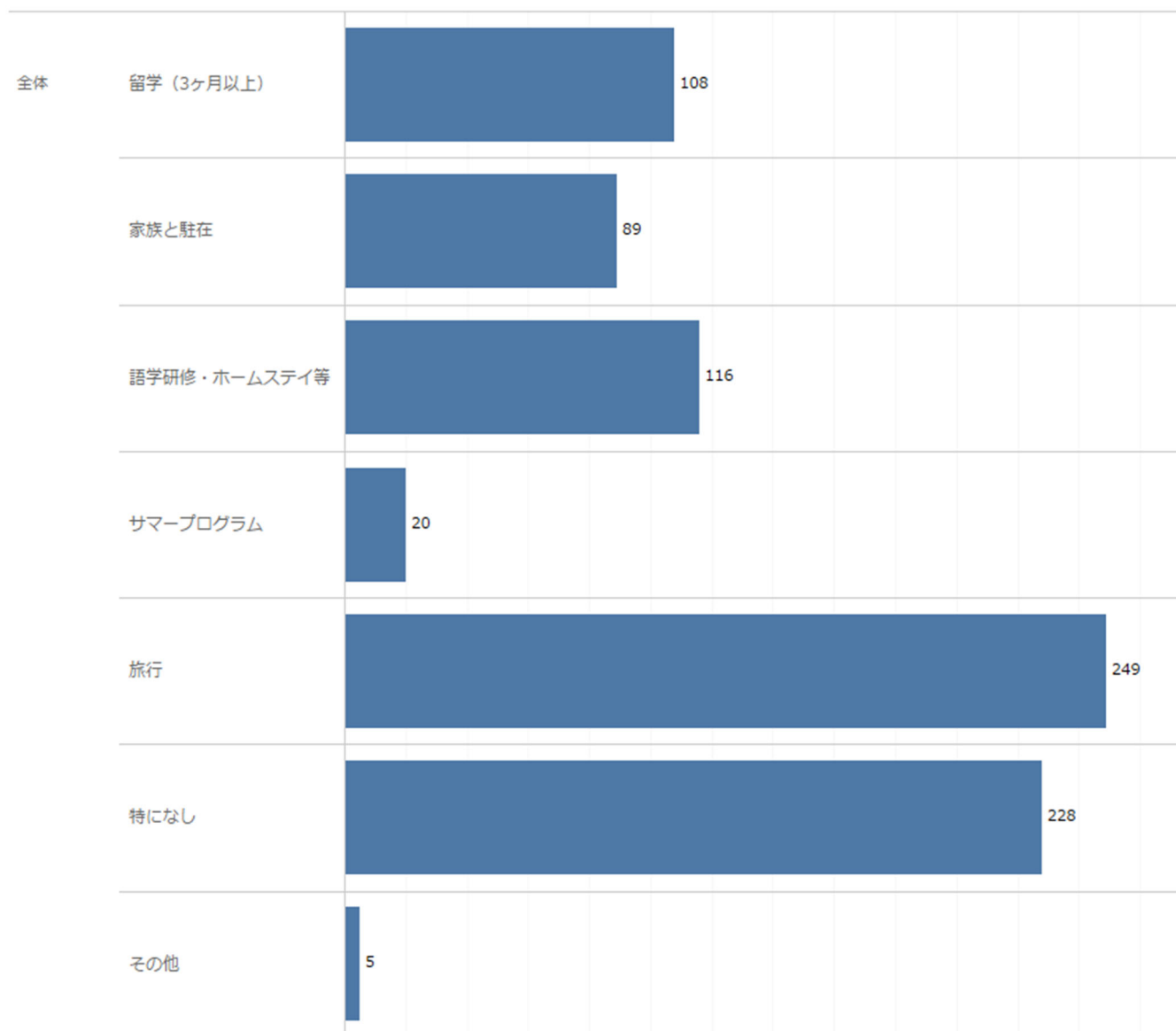
Answer
 いいえ
 はい

<海外渡航歴>

入学前の海外渡航歴を国内学生に質問した結果を以下に示す。

コロナウィルス流行前の 2019 年度入学者までは、旅行や語学研修・ホームステイ等で入学前に海外渡航歴が「ある」と答えた学生が「ない」と答えた学生を大きく上回っていたが、2022 年度入学者は初めて海外渡航歴のない学生がある学生を上回った。減少傾向が続くかと思われたが 2023 年度は海外渡航歴が「ある」と答えた学生が「ない」と答えた学生を上回った。

APU入学までに海外渡航経験はありますか？（国内）

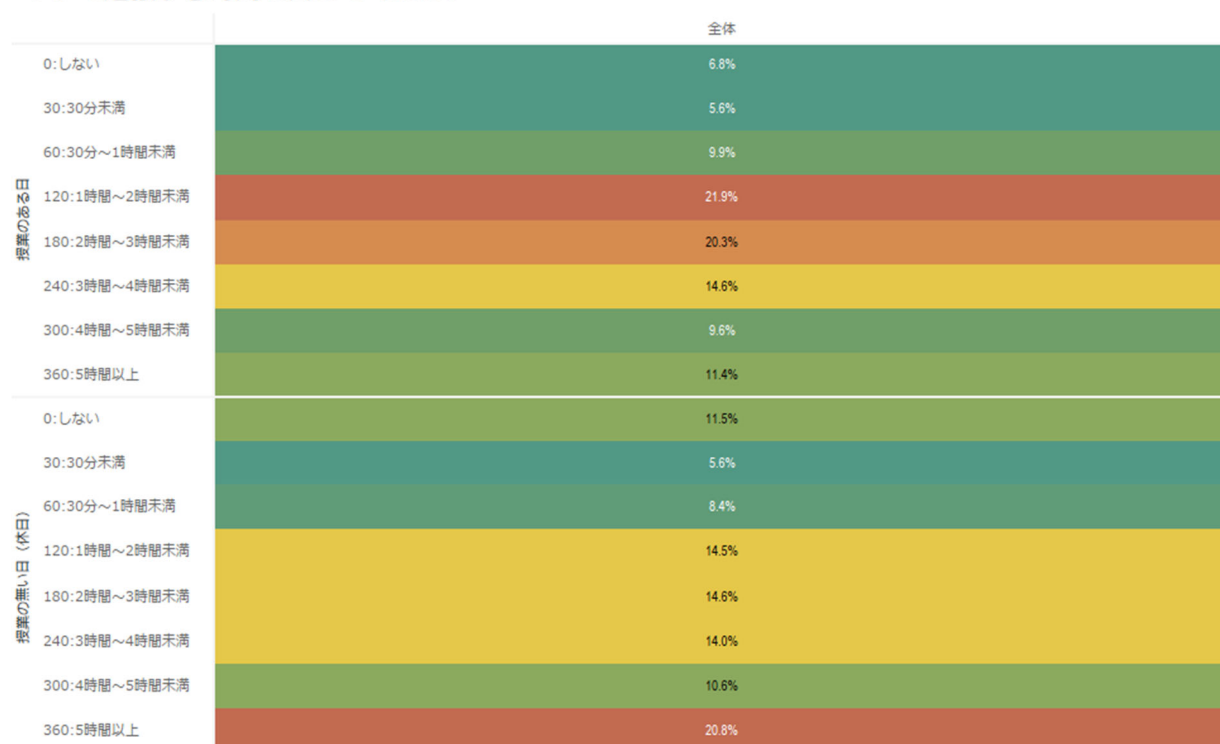


<学習習慣と読書習慣>

入学前(高校3年生次)の学習習慣と読書習慣について質問した結果をヒートマップで以下に示す。

全体では授業のある日は「1～2 時間程度」が多く、授業の無い日(休日)は「5 時間以上」が最多だった。
国内学生・国際学生の別では、国内学生の方が休日の勉強時間が長い傾向にあり、昨年度も同様であった。

高校3年生の時の平均的な1日の授業以外の学習時間を教えてください。 ※学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください



一方、1日あたりの読書時間(漫画や雑誌)は国内学生の47%が「読まない」と回答しており、国際学生は「30～45分未満」と回答しており、45分以上の選択肢でも国際学生の方が多く、読書習慣に開きがある。

1日当たりの平均読書時間を教えてください（マンガや雑誌を除く）。



現在について

<期待要素>

APU に対する期待を質問した結果を以下に示す。

「とても期待している」という回答がもっとも多い項目は「いろいろな国の人と知り合うことができる」で 86.1% だった。次いで、「多様な価値観・文化に触れられる」(83.9%)、「国際感覚を養うことができる」(83.1%)と続く。「専門知識を深めることができる」ことを「とても期待している」と答えた学生は 2020 年度に 5 割を下回ったが、2022 年度は約 56%、2023 年度は 55.6%と若干上昇している。

国内学生・国際学生の別で見ると、国際学生は上位 3 項目のうち「国際感覚を養うことができる」が「語学力が向上する」に入れ替わっていた。

APUで過ごす学生生活について、以下のことをどの程度期待していますか？



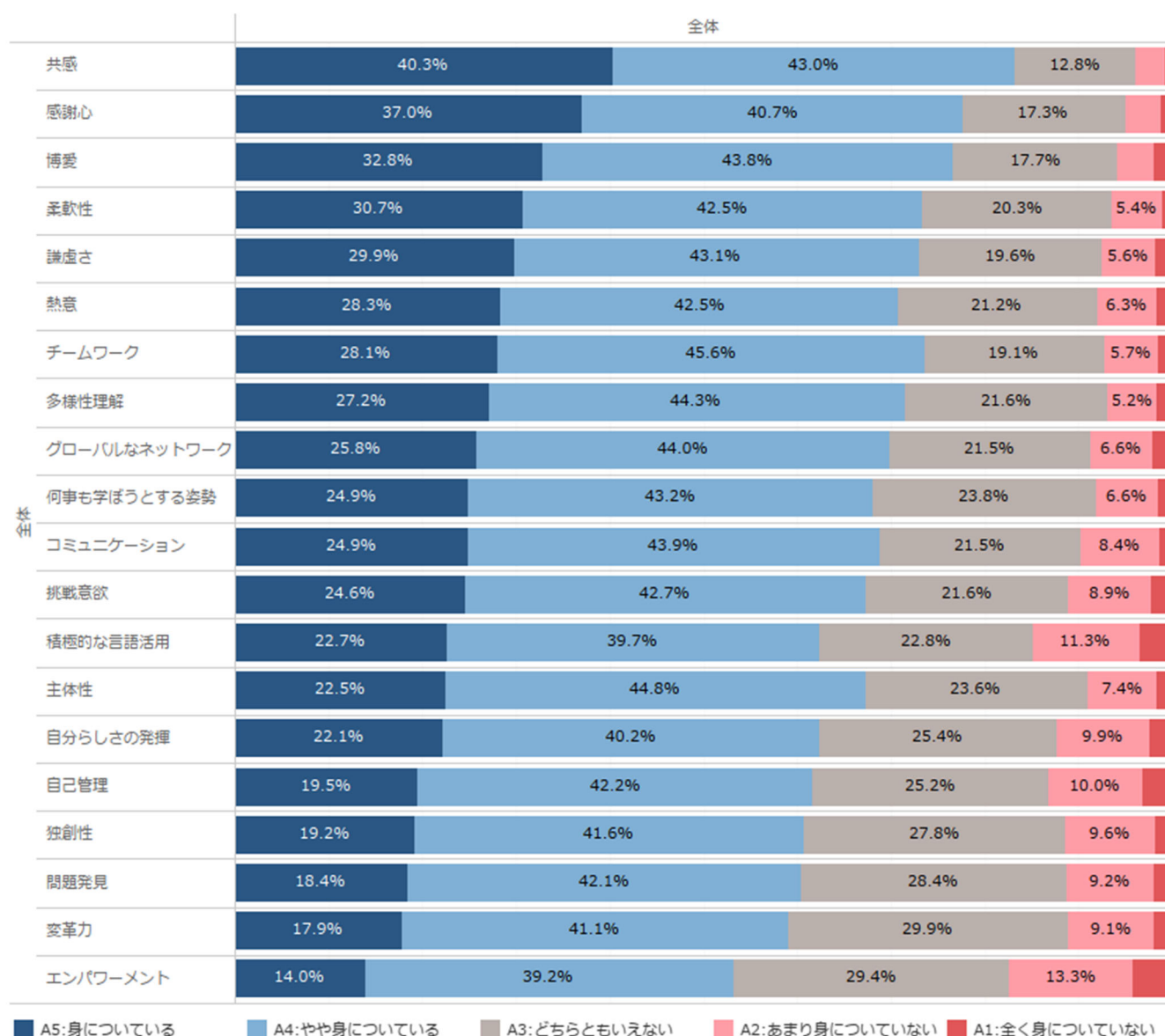
<身につけているコンピテンシーについて>

2022 年度より在学中の成長を可視化することを目的に、APU Rubric のコンピテンシーに対する自己認識を問うようになった。

入学時点で最も身につけていると感じているコンピテンシーは「共感(相手の立場や文化から相手を理解しようとし、相手の気持ちや考えを受け止める)」が最も高く、「エンパワメント(自ら保有する知識・スキル・経験を活かし、関わっている相手の知識やスキルを向上させる)」が最も低い。前年度と同様の結果となった。

学部別、国内学生・国際学生別にみても大きな差異はない。

現在、以下のような資質・能力についてどのくらい身に付いていると思いますか？



在学中から卒業後について

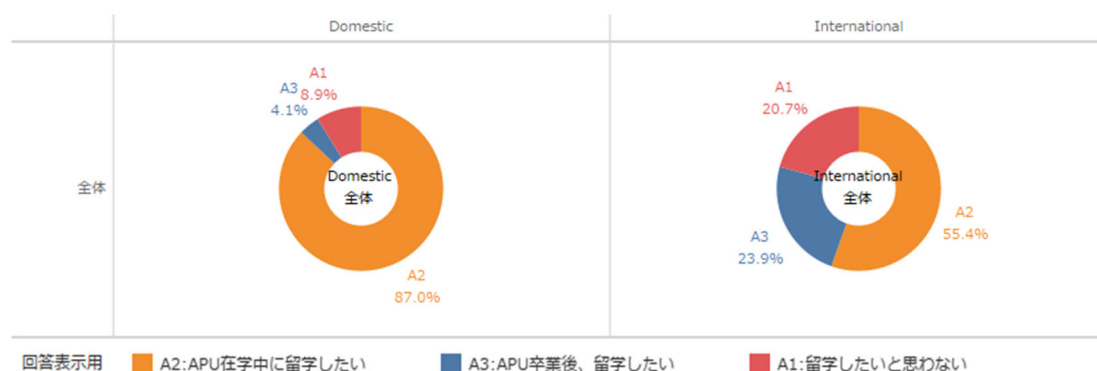
<留学希望状況>

日本以外の国への留学を希望するかどうかについて質問した結果を以下に示す。

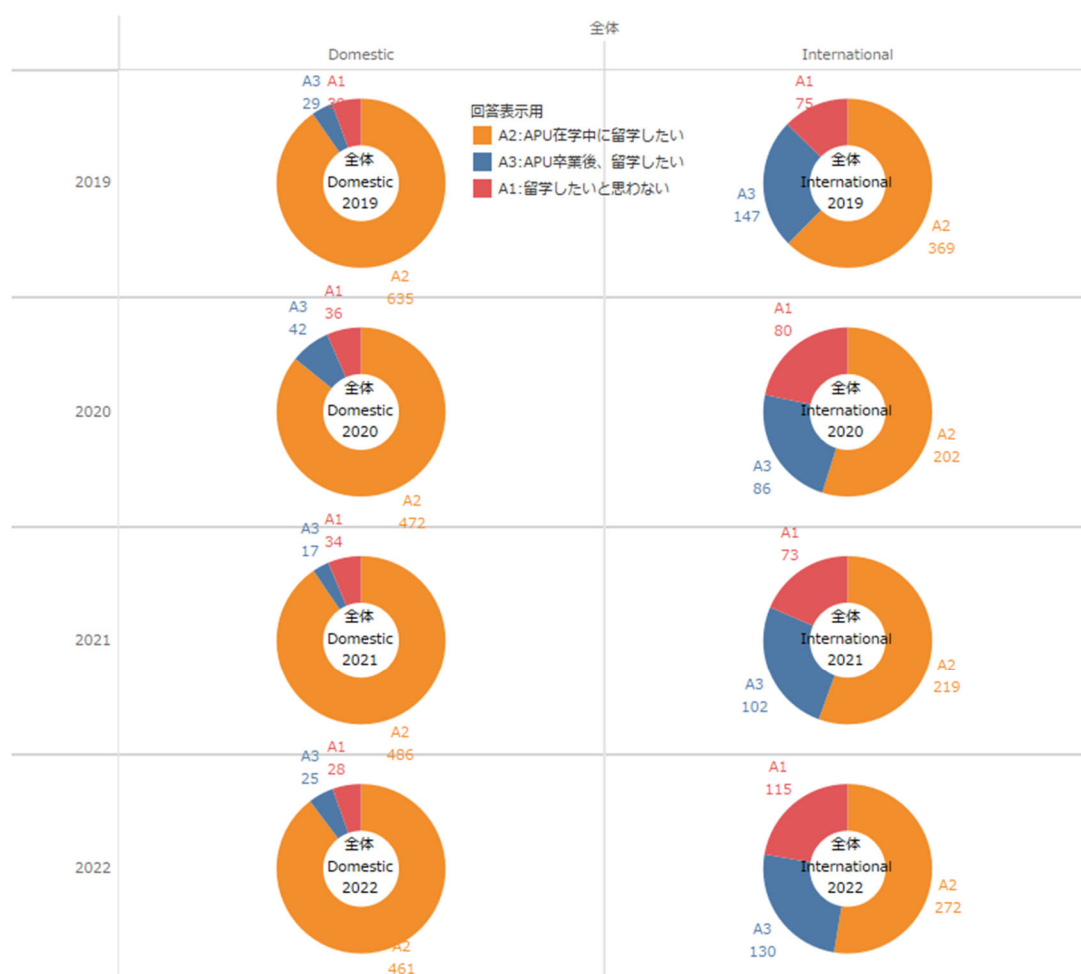
国内学生の約 9 割は「在学中に留学したい」と回答し、国際学生においても半数以上が留学を希望している。

経年と比較すると、「留学したいと思わない」という回答の割合が増加しているため、注視が必要である。

もし可能なら、あなたは日本以外の国へ留学したいと思いますか？



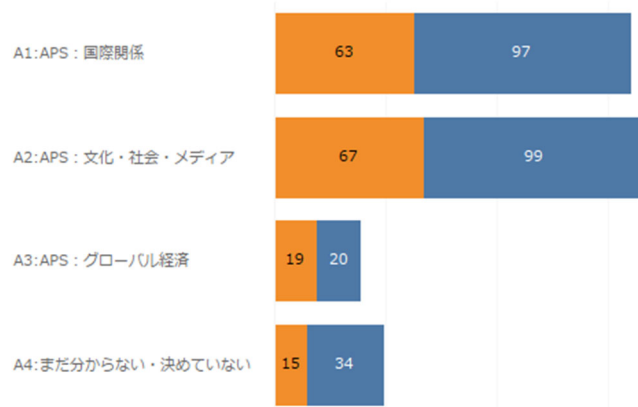
(参考: 経年データ)



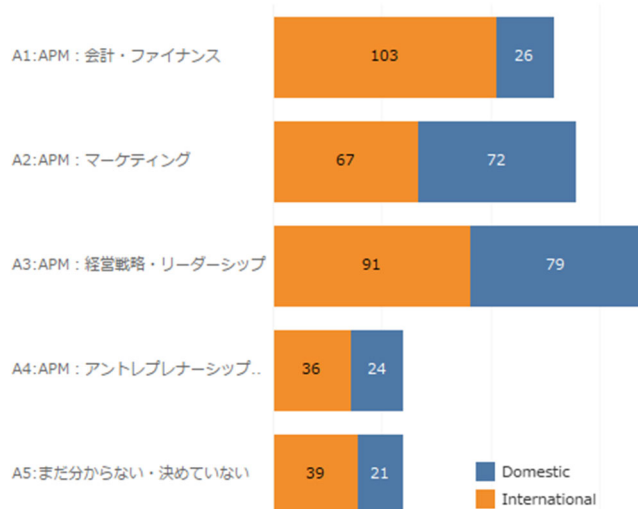
<学修分野希望状況>

入学時点での興味がある学修分野について質問した結果を学部別に以下に示す。

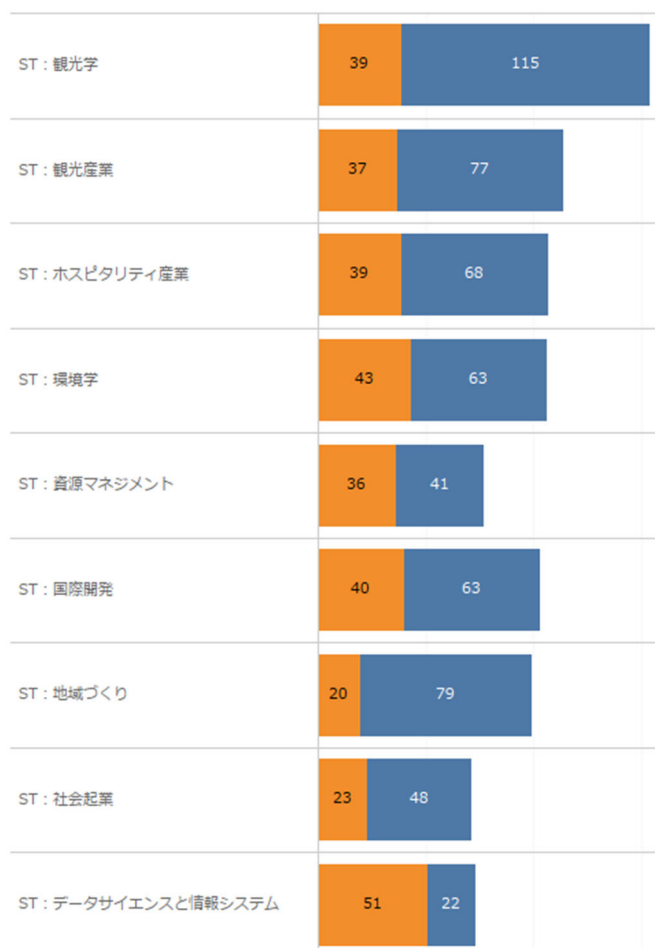
(APS) 現時点でもっとも興味がある学修分野はどれですか？



(APM) 現時点でもっとも興味がある学修分野はどれですか？



(ST) サステナビリティ観光学部には9つのコンセントレーションがあります。現時点でもっとも興味がある分野はどれですか？3つ選んでください。

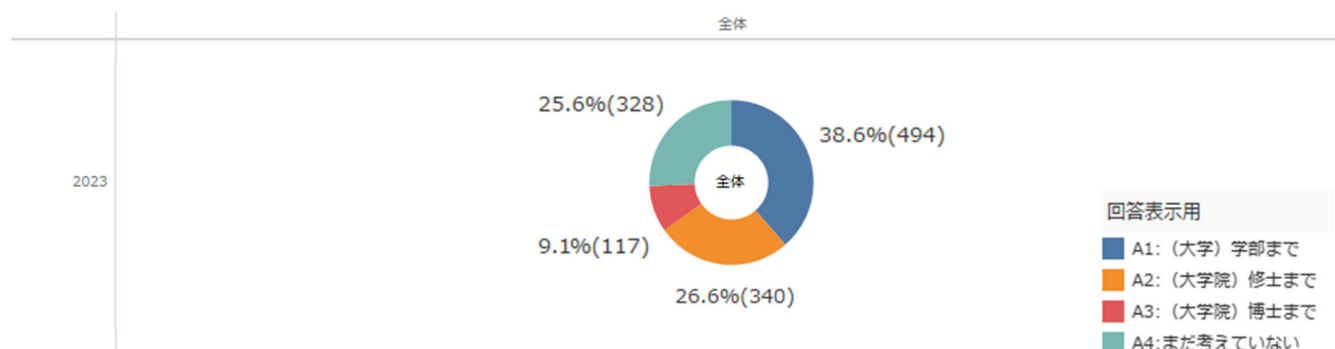


<進学希望状況>

卒業後の進学について質問した結果を以下に示す。

大学院進学希望は全体で 35.7%、博士までを希望する学生は9.1%だった。

あなたは将来どの程度の教育を受けたいと思いますか？



国内学生・国際学生の別で見ると、国際学生の場合は大学院進学希望者は50%を超え、博士号までと回答した学生も15%と、国内学生と国際学生で差異がある。この傾向は経年データを見ても確認できる。



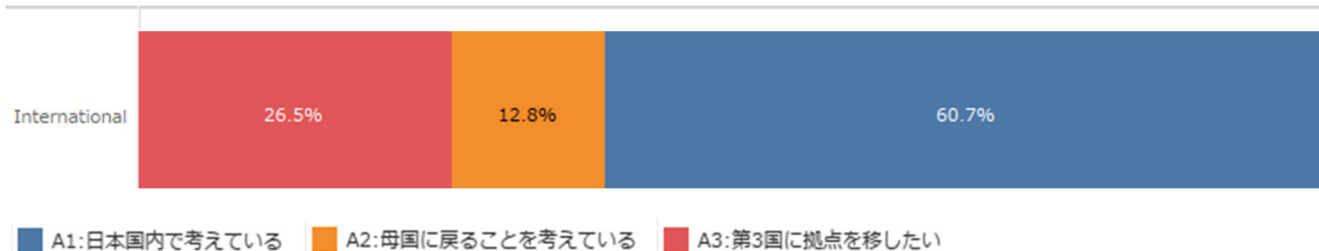
<進路希望状況(場所)>

卒業後に働く、もしくは進学する場所について質問した結果を以下に示す。

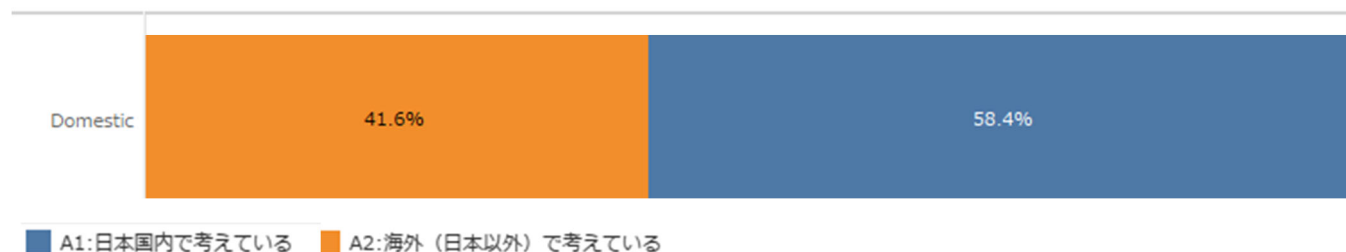
国際学生と国内学生で選択肢が異なるため、別々に示す。

経年データで見ると、国際学生の「母国へ戻ることを考えている」回答が過去5年間で一番少なく(過去平均17.5%)、国内学生の「海外(日本以外)で考えている」が過去5年(過去平均34.4%)で一番多くなっている。

卒業して最初の進路(進学・就職)について、場所はどのように考えていますか？(国際)



卒業して最初の進路(進学・就職)について、場所はどのように考えていますか？(国内)



おわりに

<データの提供について>

入学時調査のローデータをご希望の場合は全学企画オフィス(IR チーム)までお問い合わせください。

<問い合わせ先>

全学企画オフィス IR チーム(irteam@apu.ac.jp)担当:下村・原